

今回の島前合宿において企画であるヒトツナギ交流会、中学校出前授業、大学生交流会また企画外であるキンニャモニャ祭り、島観光での感想と反省点についての報告。

まず企画のひとつめであるヒトツナギ交流会について。今回の交流会ではヒトツナギ部の部員と2015年のヒトツナギの振り返りとフィードバックを行い来年のヒトツナギに還元する、1年生に対しヒトツナギ部員としての役割と責任の自覚を促すことを目的として各班にわかれ話し合いを行った。個人的には高校生が積極的に話してくれたため話がスムーズに進められたことや、ヒトツナギ部の活動について書かれた本を読んでいたため自分のなかである程度の活動のイメージがあったが地域の人にあまり認知をされていないことや、部員の人数が増えたことにより新たな問題が出たことなどイメージと違うことがあり、事前に調べただけではわからなかったことが今回の交流で明らかになったことで実際に現地に行くことの大切さを実感した。反省点としては、2年生に話の進行を任せてしまったことやヒトツナギに対する知識がまだ少なかったために高校生に説明してもらい振り返りの時間を短くしてしまった。話し合いの内容に関しては、部内での問題やヒトツナギと地域との関わり方に対する高校生の不安が大半であったが、その問題を改善、緩和する方法まで話し合うことができなかった。また、地域の方に対しての質問を事前に考えたが実際に質問したいと思っていたことが少ししか質問できず、高校生ももう少し意見を聞きたかったという様子だったため高校生が地域の方に積極的に質問できるような雰囲気づくりを大学生がすべきだった。企画後の大学生だけの振り返りでは高校生が発言してくれたため話やすかったなど話の進行に対しては良い意見が多かったが、ヒトツナギ部の先生方からのフィードバックでは大学生が深くコミットできていないこと、雑談が多い、振り返りから出た課題をうまく掘り下げられていない、ヒトツナギに対する知識が不足しているヒトツナギを一部でも実際に体験するべきなどの指摘があった。今回の交流会では地域の方からヒトツナギ部についての話を聞くこともできたが、主に高校生の実体験から話が進められていたため振り返りが美化されていたり知識が不足している大学生が振り返りをしてもあまり深い話し合いができていなかったと考えられる。実際に自らが体験することでヒトツナギ部の活動や高校生が抱えている不安に対し表面的な意見だけでなく具体的な話し合いができると思う。

次に2つ目の企画である中学校出前授業について。出前授業では中学生の自己肯定感を育み、何事も挑戦するチャレンジ精神あふれる人間になる、授業を通して自身をしり、自身の可能性を模索するということを目的とし、各自中学生とペアになってライフストーリー

一の作成を行った。この出前授業では、他の2つの企画とは違いグループではなく中学生と大学生がペアになって行われたため、2年生に話の進行を任せすぎていたことを痛感した。大学生が各自でスケジュール通りに中学生に作業を行ってもらうため、時間通りに作業を終わらせなければいけないという焦りから話を無理にまとめてしまうところがあったり中学生の話した話題を掘り下げたりすることがあまりできなかった。もっと聞き方を工夫することで中学生が話しやすい雰囲気をつくることができたと思う。全体としては、中学生が大学生と関わったことで進路について具体的に考えるようになったこと、ライフストーリーをすることで自身がどのような性格なのかを知ることができたなどプラスの感想をもらえたり、大学生も中学生と楽しく交流することができ良い出前授業になったと思う。

次に3つ目の企画である大学生交流会について。今回の大学生交流会は直接会って話し合いをする予定だったが、天候のため Skype を使った話し合いを行った。議題としては、島前に対する印象、島前でやってみたいこと、学生が地域で活動する意義、自分が学生の内に地域に対してできること・それによって得られること、そして現在地方にインターンをしている大学生2人の話を聞いた。個人的に学生が地域で活動することについての議題が印象に残っている。法政大学生側は事前に議題の内容について話し合いを行っていて事前の話し合いでは学生が地域で活動することに対しプラスの意見が多かった。例えば、社会人や地域が自発的に行うよりも学生が行うことで話題性がでる、学生であることでたくさんの方が協力してくれるためアポイントメントが取りやすい、学生の内から活動することでいろいろな経験ができ将来の人材育成につながるなどの意見がでた。しかし交流会での話し合いでは大学生が地域に関わることのマイナスな意見が多かったように感じた。学生の中に地域に関わる活動をしたとしても次の世代に受け継がなければせっかくの活動が途中で終わってしまうこと、学生では地域に深くにまで関わることができず地域の人のお手伝い程度の活動しかできないため本当役に立っているのだろうかなど学生であるがために表面的にしか地域に関わっていないのではないかという事前の話し合いでは話し合われなかったことが出てきたため、学生が地域で活動することは地域にとって利益があるのか改めて考える結果となった。法政大学側は話し合い後地域との関わり方、入り方を見直すことができたり事前の話し合いでは話し合われなかったことについて交流会では話し合うことができたため今後の地域活動についてプラスになることが多かったと思う。しかし、相手側の大学生は地域活動前提としているわけではなかったため、今回の議題に対して不満があったり、話し合いによって得られるものがなかったという意見もあったため、振り

返りの改善点にもあるように、お互いの価値観を予め共有しておく必要があったと思う。また、直接会って話し合いをすることでもっと違った内容になっていたのではないかと思う。

最後に企画外の活動について。企画以外では海士町でのキンニャモニャ祭りに参加したり島観光を行った。キンニャモニャ祭りでは関西の大学生のチームに混ざりしゃもじをもってキンニャモニャ踊りを踊り、踊り終わった後には賞をもらうなど島ならではの経験ができたと思う。島観光では、天候のため予定していた観光スポットにはいくことはできなかったが海に行ったり島前だからこそ体験できたことが数多くあった。

今回の島前合宿では地域の方・中高生・大学生と関わることで島の教育とまちづくりを学ぶということが目的だったか、自らもライフストーリーやジョハリの窓を作成したり、企画後に振り返りをするによって自分自身について改めて振り返るきっかけになったと思う。ジョハリの窓では自分の想像とは違うように相手には見えていたり、普段関わることのない中学生・高校生と関わることで刺激をもらうことができた。また同じ大学生でも目標をもって活動している人がいることを間近でみて現時点で目標なく大学生活を送っている自分に対し焦りを感じた。島前合宿に参加したことによって、地域のことだけでなくたくさんの人との関わりによって自分にとってプラスになる経験になったと思う。